

「国土交通省 公共事業コスト構造改革プログラム」

【 施策名： (2) 計画・設計から管理までの各段階における最適化 【3】 管理の見直し 】

制振構造の採用による耐震補強の合理化

工事名：大三島橋西高架橋他耐震補強工事

概要：急峻な地形のため、通常の橋脚巻立て補強の実施には、施工用の進入路として仮設栈橋が必要であり、掘削量も大規模となるものであったが、制振装置の採用により橋脚補強が不要となり、コスト削減が図れました。

効果：制振装置の設置は、橋面上からの施工が可能であるため、構造物掘削や仮設栈橋などの構造物が不要となった。

■ 縮減額 36百万円 (対象橋脚数：1 橋脚)

